

# 神海丸通信

No.4



事前指導により安全対策が万全に行われ、いよいよ操業（1月31日）が始まりました。大きなマグロを見ることを楽しみにしていた生徒達。実習服をカッパに変え、「周りを見て行動できるよう頑張りたい!」「メリハリをつけて行動したい!」「人生において大きな経験になると思うので頑張りたい!」「普通の実習生で終わらない!!」など、さまざまな目標を持ち、自分が担当する作業をチェックしていました。操業初日はほとんどの生徒が見学を訪れ、揚げ縄の作業中は見学者が絶えませんでした。



出港してからの数日間、漁場（漁を行う場所）を目指す生徒達は神海丸でしか味わうことのできない変わった日常を経験しました。まず1つ目は「海洋観測」です。表面水温や海の透明度、またASTDという装置を深海1000mまで沈め、水温・塩分などを1mごとに調査しました。この装置と一緒にカッパ種の容器を沈めると… 水圧により写真のようになります。2つ目は、船は東へ航海を続けると夜明けがどんどん早くなります。そこで、船内では数日ごとに時計（時刻）を30分進めていきます。そんな生活にも慣れてしまった生徒達ですが、日付変更線を越えた瞬間に大混乱が発生しました。「24時間の後進」、つまり1月29日が終わった次の日が、もう一度1月29日でした。これには生徒達も頭を悩ませ、その原因を作った日付変更線を写真におさめようと、数名の生徒が撮影に向かっていきました。果たして、撮影できたのか… 結果は聞いていません。

